



配信先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会

2025 年 10 月 6 日

大阪公立大学

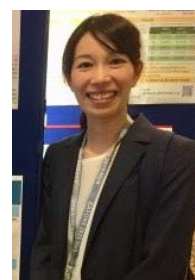
病院内の騒音が入院患者に与える影響を明らかに -10 年間の文献データを分析-

医療機器の増加や高度化により病院内の騒音レベルは上昇傾向であり、世界保健機関（WHO）が推奨する騒音基準を大きく上回る状況が、医療現場において常態化しています。こうした環境が入院患者の心身に与える影響を包括的に理解することは、療養環境における音環境の調整において中心的な役割を担う看護師にとって重要です。

大阪公立大学大学院看護学研究科の園田 奈央准教授らの研究グループは、2014 年から 2023 年にかけて発表された関連文献を対象に、主要な文献データベースを用いてスコーピングレビュー*を行い、研究目的に合致する 28 件を研究対象として抽出しました。これらの論文を調査した結果、病院内の騒音は、入院患者の睡眠時間の短縮や睡眠の質の低下だけでなく、心拍数・呼吸数の増加、不安の増大、せん妄の発症リスクの上昇、さらには再入院リスクの増加にも関連することが明らかとなりました。これらの知見は、騒音が患者の治療経過や回復に及ぼす影響が非常に大きいことを示しています。

本研究成果は、2025 年 7 月 1 日に国際学術誌「Worldviews on Evidence-Based Nursing」にオンライン公開されました。

本研究では、病院内の騒音が入院患者の健康に与える影響を明らかにしました。病院内の騒音は、入院中だけでなく、退院後にも影響します。患者さんにとってより良い療養環境を実現するために、今後は、騒音低減に向けた取り組みの重要性を広く発信していきたいと思います。



園田 奈央准教授

<掲載誌情報>

【発表雑誌】 Worldviews on Evidence-Based Nursing

【論文名】 Impact of Environmental Noise on Inpatient Outcomes: A Scoping Review

【著者】 Nao Sonoda, Hideaki Furuki, Akiko Morimoto

【掲載 URL】 <https://doi.org/10.1111/wvn.70056>

<研究内容>

本研究では、病院内の騒音が入院患者の健康アウトカムに与える影響を明らかにするため、スコーピングレビューを実施しました。PubMed や CINAHL などの医学・看護系データベースから、noise や sound、alarm などのキーワードが含まれている 5,851 件の文献を抽出し、重複を除いた 4,426 件を対象に、2 人の研究者が抄録によるスクリーニングを独立して行いました。その結果、研究目的に合致する 81 件を特定し、さらに全文レビューを経て 28 件の文献を研究対象として抽出しました。スクリーニング過程で意見の不一致が生じた場合、第三の研究者が介入し合意形成を行いました。

そして、この 28 件の論文を対象に、病院内の騒音と健康アウトカムの関連性を、統合的にマッピングして整理した結果、病院内の騒音は、入院患者の睡眠時間の短縮や睡眠の質の低下（睡眠関連アウトカム）だけでなく、心拍数・呼吸数の増加（生理的アウトカム）、不安の増大やせん妄の発症リスクの上昇（心理的アウトカム）、さらには再入院リスク（臨床的アウトカム）の増加にも関連していることが示されました。

本研究成果は、静かな環境の整備が、患者の回復促進に寄与する可能性を示しており、今後の病院設計や看護実践に重要であることを示しています。

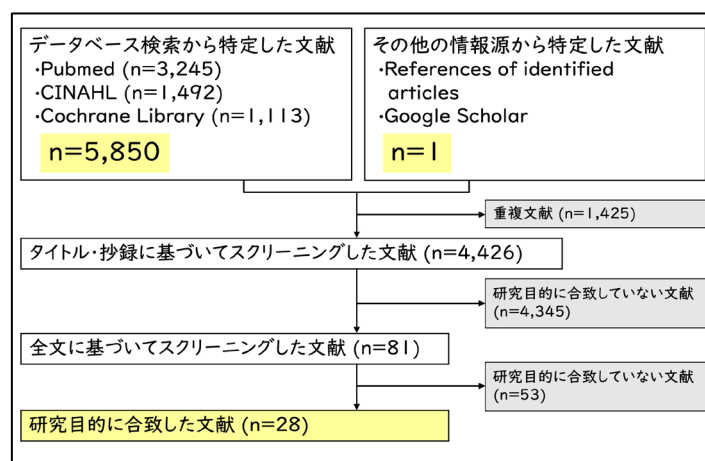


図. スコーピングレビュー（国際的なガイドラインに準拠したエビデンス統合のための抽出プロセス）

<用語解説>

※ スコーピングレビュー：研究分野やトピックに関する既存の文献を広く網羅的に調査し、研究の全体像や傾向、知識のギャップを明らかにするためのレビュー手法。研究の網羅性と透明性を確保する点で重要な意義を持つ。

【研究内容に関する問い合わせ先】

大阪公立大学大学院看護学研究科
准教授 園田 奈央（そのだ なお）

TEL：06-6645-9053

E-mail：sonoda@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

大阪公立大学 広報課

担当：久保

TEL：06-6967-1834

E-mail：koho-list@ml.omu.ac.jp